

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第65回

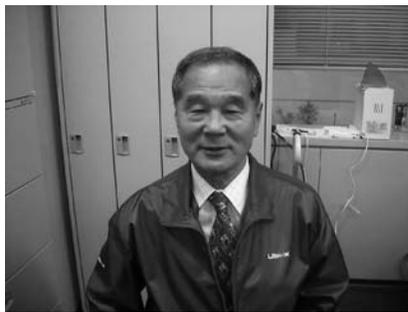
当公社の支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第65回目はパルスオキシメーターの製造販売業者として日本初の小型製品化を実現し、飛躍的な事業拡大を遂げているユビックス株式会社を紹介します。公社が運営するタイム24インキュベーションオフィスへの入居をはじめとする公社の支援メニューをご利用いただいています。

日本初の小型製品化を実現した医療機器製造販売ベンチャー

ユビックス株式会社

1. 医療機器の営業として
ユーザー視点を醸成

ユビックス株式会社・代表の新実忠之氏は医療業界ひと筋30年余りの経験を経て創業。同社は今年で9期目を迎え飛躍的な事業拡大を実現しているベンチャー企業である。パルスオキシメーターとは、指先や耳に計測器を付け、組織を透過する光を分析して酸素飽和度(酸素運搬を担うヘモグロビンが酸素と結合している割合)を求める医療機器である。人体を傷付けずに連続的に測定できるため、1990年頃より麻酔中の患者用モニターとして普及。軽量小型機の出現により最近では、通常時のバイタルサイン(脈拍・心拍数、呼吸数、血圧、体温など)の確認にも広く用いられるようになった。



ユビックス株式会社・代表の新実忠之氏

新実氏は名古屋大学医学部で非常勤職員として5年間勤務。学会の準備や実験に明け暮れる中、高額な医療機器を購入するための補助金申請など、様々な業務に携わった。その後、国内・外資系など複数の医療機器の輸入会社で営業職として活躍。「ものづくりの観点は技術サイドが中心で、ユーザー側の声が反映されていない」ということに気づきはじめた。どうすれば顧客の声に答えられるかを模索する中で「この医療機器にこれをつなげればニー

ズに合う」という顧客側の視点に立った提案をするように心がけて営業してきた。「この視点が今の仕事にも役立っています」と新実氏は力強く語る。

2. 1年半の開発期間を経て
日本初の小型製品化を実現

「パルスオキシメーターを作ろう」という誘いを受け、2002年9月に仕事の先輩が設立した会社に経営メンバーとして入社した。その後、事業を承継することとなり、新実氏が代表となって自らが新規創業することを決意。2004年4月に資本金1,000万円で会社を設立。その直後から大学の研究機関などで製品開発に取り組んだ。当時、医療機器は「白もしくは淡い色しかなく、カラーは不謹慎」と考えられていたが、新実氏は製品をカラー化することを考えた。さらに「バックライト機能」「バーコードやシリアルナンバーによる管理機能」を製品に盛り込むなど、「ユーザー側」に立った開発を徹底して行った。そして約1年半の開発期間を経てパルスオキシメーター・ユビックスが完成した。日本で生まれた開発技術を活かして(注1)、日本初の小型パルスオキシメーターの製品化を実現させたのであった。

その後2005年5月、商品発表を行った展示会では予想を上回る約100社からの受注を獲得することができた。それまでの経験が活き、「北海道から九州まで日本全国の販売店が協力していただき、市場投入直後から順調にスタートダッシュを切ることができた」と新実氏は当時を振り返る。

3.リピーターを生み出す仕組みづくり

ユビックス社では設立当初より、修理希望の顧客には、修理だけでなく、「バージョンアップして新品同様に返す」サービスを行っている。顧客から「親切さにびっくりされる」ことも少なからずあるようだ。「作って売るだけでなく、お客様目線でのアフターサービスも重要」と考えており、「リピーター」を生み出す仕組みづくりに注力している。



新製品“Pumori”（ピンク）

製品化には医療現場の意見を取り入れており、最近の製品は看護師のポケットに入る大きさでかつ、見やすい大型ディスプレイを採用した。「看護師さんから可愛いという反応があったんです」と新実氏は微笑んだ。「装置の性能や仕様だけでなく、デザインも直接売上に影響します」「他の機械にない特徴を持たせるだけでなく、2つ以上の特長を持つことが必要、ひとつでは足りない」と新実氏は言う。最新の製品には「外から製品が見える」斬新なパッケージを採用するなど、デザイン上の工夫を新実氏は追求し続けている。

初期の製品は会社名をそのまま製品名として、新製品には新実氏の趣味でもある登山から、ネパールの山名を使用した。これは、ビジネスを通じて頂点を目指すという新実氏の事業ビジョンが込められている。ネーミングにも新実氏のユニークな発想力が活かしている。

初期の製品は会社名をそのまま製品名として、新製品には新実氏の趣味でもある登山から、ネパールの山名を使用した。これは、ビジネスを通じて頂点を目指すという新実氏の事業ビジョンが込められている。ネーミングにも新実氏のユニークな発想力が活かしている。

4.事業ステージにあわせて オフィスを有効活用

ユビックス社がタイム24インキュベーションオフィスに入居したきっかけはふとしたことであった。事務所物件を探していたところ、「知人がオフィス情報を見つけてくれて」、締切間際に応募をした。「入居して1年はあっと言う間でした」と新実氏は当時を振り返る。

2006年11月に入居してから、売上数量が拡大し、従業員数が増えたため、2007年4月には同施設内の広い部屋に移り、ステップアップしていった。「やりたいこと」がある人を支援するインキュベーション施設は「設備も充実しており（注2）、創業者にとって絶対に必要」だと新実氏は語る。

会社設立から事業拡大までの自らの経験を踏まえてインキュベーション機能の必要性を力強く訴えた。最近では、公社が行う展示会等出展支援助成事業も利用している。さらに、タイム24での公的施策セミナーをきっかけとして、区の施策の活用もしている。

5.“かけがえのない製品”づくりを目指して

今後は新しいアイデアを活かした複数の製品化を計画している。さらにインキュベーション施設の同じフロアの仲間と共同開発にも着手、異なる分野で技術を持つ企業と組んで製品開発に取り組み、今年8月には商品化していく意向である。製品化の折には「弊社の販路を活かして販売していきたい」と言う。



タイム24内の事務所風景

日頃から「よく学び、よく遊び」というモットーで仕事をしているという新実氏。「これからもお客様から頂いたアイデアをもとに（顧客の求めるニーズを反映させた）“かけがえのない製品”を作っていきたい」と力強く語った。

（創業コーディネータ 平村一紀）

（注1）もともと日本の開発技術であったパルスオキシメーターが最初に製品化されたのはアメリカである。パルスオキシメーターがアメリカから日本に入ってきたのは1980年で、当時は1台数十万円から150万円程度の価格帯で大型のものが主流であった。

（注2）たとえばタイム24にはデジタル工房という施設がある。映像・画像処理用のPC、音楽・音声の編集機器・研修用PC、大型プロジェクター等の設備を豊富に備えており、入居者は無料で利用することができる。

企業名：ユビックス株式会社
 代表者：新実 忠之
 従業員数：8名
 本社所在地：東京都江東区青海2-4-32 TIME24
 TEL：03-5531-0154
 FAX：03-5531-0154
 URL：http://www.ubi-x.co.jp/index.html